


開催地名	宮崎県川南町
開催日時	令和7年9月5日(金) 18:00 ~ 19:30
開催場所	川南町農村環境改善センター広間
語り部	井上 達彦 (宮城県石巻市)
参加者	町内在住防災士・町内各地区役員等 50名
開催経緯	本町は、立地(比較的高台に位置している。)上の関係などから、これまで大きな災害(水害等)の発生がなく、町民の防災意識が低い。自主防災組織数も2団体しかなく、近隣町と比較しても極端に少ない現状である。そんな状況であることから、令和5年度に防災士取得者を組織化(川南防災士会を結成)し、現在、防災士会を中心に各地域において自主防災組織の結成に向け活動を行っている。令和7年度は自主防災組織の結成の結成補助金の創設など、組織拡大に向けさらに取組を推進していく予定である。
内容	<p>1 東日本大震災の被害状況</p> <p>2011年3月11日午後2時46分、最大震度マグニチュード9.0という日本周辺に於ける観測史上最大の地震が発生した。全体での死者数19,775人(うち石巻市で3,553人)行方不明者2,550人(うち石巻市で417人)とされ、これは阪神淡路大震災の約2.7倍である。当時の石巻市の人口は162,822人であったが2025年には132,239人と、約3万人の減少となっている。全壊家屋数と床下・床上浸水棟を合わせると8万棟近くにも上る家屋の被害により、故郷を離れる決断も止むを得なかった状況があったと考えられる。</p> <p>2 震災後に行った住民の意識調査の結果を踏まえての考察</p> <p>避難指示が出た際、すぐさま避難をしたのか、どのように避難したのか、どこへ避難したのか、また震災時に困ったことなどをグラフにして説明。具体例として、語り部自身の家庭での経験を、当時語り部の家族により撮影された生々しい写真も添えて紹介。これにより、決して自然を甘く見てはいけないということ、日頃からの危機意識、防災意識の重要性が見えてきた。</p> <p>3 今後の課題と取組について</p> <p>まずは常に防災意識を持ち決して他人事と捉えないことが重要。大規模災害はいつ、どこで起きてもおかしくない時代になってきている。自助・共助・公助の考え方が大事だが、その中でももっとも大切なのは自助(自分の命は自分で守る)。自分から情報を求めて行かないと、なかなか必要な情報は入って来ない。次いで共助が大切となるが、なかでも身近にいる人達との助け合い(近助)が重要。最後に公</p>

	<p>助となるが、公助については災害時すぐには被災地に入ってこないことを頭に置いておいた方がよい。公の援助、救助が届くには時間がかかる。</p> <p><語り部の経験を踏まえて紹介された9つの心構え※9の事（こと）></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 これまでの経験則にとらわれないこと 2 昨今は、いつ・どこで・どんな災害が起きても不思議ではないこと 3 他人事と捉えず、自分事として捉えること 4 有事の際は、訓練で行ったこと以外はできないこと 5 地震の予測はできないが、それ以外のほとんどは予測できること 6 段取り八分！（事前の準備には、物心両面が必要なこと！） 7 近隣住民とのコミュニケーションが重要なこと（遠くの親戚より近くの他人） 8 自分の命は自分で守ること 自分達の地域は自分達で守ること 9 避難とは！難を避けること！安全な場所に身を置くこと 
開催地より	<p>想像以上の参考になる話が聞けて良かった。今回は防災士会の研修会も兼ねていたが、こういった方向性になるのか決めていなかったなので、その指針となるような内容で有意義だった。</p>